

福祉みやぎ

2018 11 月号
vol.600

福祉みやぎ

vol.600

平成30年

11月15日

発行

編集・発行/社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3 TEL 022-225-8476(代) FAX 022-268-5139
印刷/株式会社ソノネ 奇数月15日発行 URL <http://www.miyagi-skf.net>

作品
なかよし地蔵さん

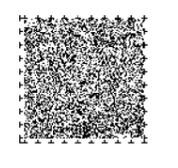
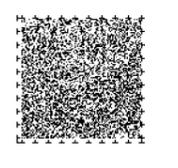
作者 なごみなの里地域福祉サービスセンター
特別養護老人ホーム和風園
「活動大好き仲間たち」

「地蔵さんを作りたいね!」と利用者の方々の発想でお地蔵さんを貼り絵で完成させました。皆さんの自身作です。



CONTENTS (主な内容)

- P2 特集
立ち直りを支える社会を実現するために
～宮城刑務所における再犯防止推進のための取組～
- P4 Heart&Works
“日本で一番働きたくなる街、みやぎ”
を目指して
- P6 ひと・まち・ころ
- P7 キラリ☆仕事人
- P8 ちいきをつ・な・ぐ
- P9 市町村社協レポート
- P10 復興宮城のいま
- P11 みやぎいきいきシニアだより
こんなことやってます!
- P12 県社協掲示板



県社協掲示板

➤ 温かい真心をありがとうございます

➤ 平成30年度福祉施策に対する要望書を提出しました

下記の方々から、本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。(平成30年9月27日現在)

平成30年7月31日 株式会社河北新報社さまより
社会福祉事業のために…………… 54,651円

平成30年8月7日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 25,000円

平成30年9月6日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 25,000円

本会では、宮城県内の福祉団体から要望を取りまとめ、平成30年9月18日に宮城県へ要望書を提出しました。要望事項及び回答はホームページなどで報告します。



➤ 宮城いきいき学園 平成31年4月入学生募集!

生きがいと健康づくりのための必要な知識を身につける学びの場です。

対 象 県内に居住のおおむね60歳以上の方

場 所 ①仙南校 ②大崎校 ③石巻校 ④気仙沼・本吉校 ⑤登米・栗原校
※通学可能であれば、どの学校に申し込んでも結構です。

募集人員 各校40人

学 習 日 年間22日(2学年制) 入学金・受講料等 入学金：5,000円 受講料：20,000円(年間)

募集期間 平成30年12月1日から平成31年2月28日まで

申 込 書 各市町村の高齢者福祉担当課、生涯学習担当課、社会福祉協議会、および本会ホームページからも入手できます。

【申し込み・お問い合わせはこちら】
宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課 電話番号 022(225)8477

➤ 「平成30年7月豪雨(西日本豪雨)災害」被災地に県内各社協から職員を派遣しました

平成30年7月豪雨により、西日本を中心に甚大な被害がありました。豪雨災害により、お亡くなりになられた方に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

今回の豪雨災害では、被災地域の社会福祉協議会(以下「社協」という)より、全国社会福祉協議会を通じて応援職員の派遣要請があり、平成30年7月12日から10月17日までの間、延べ212人の県内社協職員を派遣しております。広島市、東広島市の各社協の災害ボランティアセンターの運営支援等を通じ被災者支援を行なったもので、今後も社協ネットワークを活かした支援に努めていきたいと考えています。



宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度 宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

- ポイント1** 社会福祉協議会の会員である福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。
 - ポイント2** 地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。
 - ポイント3** 団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。(一部適用外)
- お問合せ 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 TEL022-225-8476
三井住友海上火災保険株式会社 TEL022-221-3171
株式会社オンワード・マエノ TEL022-762-9915
- ※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

ご不明の点は
お問合せください!

立ち直りを支える社会を実現するために 宮城刑務所における 再犯防止推進のための取組

宮城刑務所

宮城刑務所とは

宮城刑務所（以下当所）は法務省所管の刑事施設で、無期刑を含む執行刑期10年以上の犯罪傾向が進んだ者（LB指標）及びそれ以外の犯罪傾向の進んだ者（B指標）を収容しています。



▲宮城刑務所敷地内にある「朝鮮ウメ」伊達正宗公が朝鮮出兵の際に持ち帰った梅の子孫です。

一定の基準のもとで精査が必要と認められた受刑者を収容し精密な調査を行う「調査センター」、東北地方の専門的医療が必要とされた受刑者を収容する「医療重点施設」の役割を担っています。

当所では受刑者に対し、刑務作業、職業訓練、改善指導などの各種プログラムを通じて、自己の犯罪に至る問題性の改善や社会適応力の向上を図っています。また、就労支援・福祉的支援を通じて出所後の生活基盤の確保に係る支援を行っています。

再犯防止推進計画とは

平成28年12月に施行された「再犯の防止等の推進に関する法律」に基づき、平成29年12月に閣議決定されたものです。平成30年

再犯防止推進計画の7つの重点分野に係る取組（当所の取組を中心に）

1 就労・住居の確保等

住居・仕事がない（知識不足、技能不足、意欲不足などにより仕事に就けない、長続きしない）といった、いわば立ち直りへの壁を抱えて出所する者が多いのが実情です。従って、こうした出所者の円滑な社会復帰促進のためには、安定した生活環境・必要な支援の確保と、継続的な支援が必要となります。こうした考えのもと、再犯防止推進計画では、以下に示す7つの重点課題を設定しています。

当所では、非常勤のキャリアカウンセラー有資格者である就労支援スタッフ、障害者生活支援スタッフのほか、ハローワークから駐在員が定期的に来所し、それぞれの専門性を活かして協働して就労支援を行っています。協力雇用主の確保、就労への動機づけ指導、企業とのマッチング、所内での採用面接などにより、出所時の就労先確保や出所後の円滑な求職活動を支援しています。

2 保健医療・福祉サービスの利用の促進等

当所には、常勤の社会福祉士、非常勤の社会福祉士及び精神保健福祉士が勤務し、出所時引受人がなく、高齢又は障害（知的、身体、精神）を有する者が出所時に必要な福祉的・医療的措施



▲特別改善指導（薬物）のグループワーク
受刑者の顔は個人情報保護のため、マスクングしています。



▲職業指導（建設機械科）

度を初年度とした5年計画で実施する新しい取組であり、国、地方公共団体、民間が三位一体となつて取り組むものです。こうした取組の背景には、犯罪者全体の約3割が再犯者で、

が受けられるための支援を保護観察所と連携しながら行っています。

3 学校等と連携した修学支援の実施等

当所は該当しませんが、少年院（未成年の者が収容される施設。宮城では、東北少年院、青葉女子学園）では、復学のための学校との調整や進学のための情報提供、学習指導、受験への便宜などを行っています。

4 犯罪をした者等の特性に応じた効果的な指導の実施等

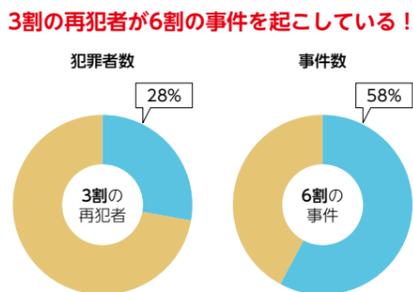
当所には、常勤の心理専門職が勤務しており、刑執行開始時の調査において当該受刑者の犯罪に結びつく問題をアセスメントしています。その結果を踏まえ、常勤の教育専門職、非常勤の処遇カウンセラーなどによる改善指導を行っています。

5 民間協力者の活動の促進等、広報・啓発活動の推進等

地域福祉に携わる皆様のお力

その3割の再犯者によって全体の約6割の犯罪が行われるという実情があります。従って、犯罪全体を減少させるために再犯防止に焦点を当てることは、そのまま犯罪の減少につながり、社会の安心・安全に直結する取組であると言えます。

大半の受刑者は、二度と犯罪しないと心に誓い出所します。しかし、彼らは出所後、孤独（家族などから助けってもらえない）、薬物依存（依存症から回復できない）、高齢又は障害があるが、必要な福祉的支援が得られない、



（出典：平成19年版犯罪白書）
昭和23年から平成18年9月30日までの間に有罪が確定した者のうち、初犯者・再犯者の区別をせずに無作為に抽出した100万人を対象として調査したものです。
▲再犯防止推進法の必要性を示したグラフ

添えを受けて推進していくもので、機会を捉えてお願い申し上げているところです。

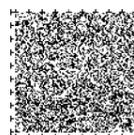
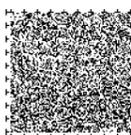
6 地方公共団体との連携強化等

地方公共団体関係課と連絡を取り合い、連携方法を具体的に検討しているところです。

7 関係機関の人的・物的体制の整備等

被収容者の処遇環境を整えることに意を尽くすほか、矯正施設職員自らが当該取組を理解するための研修を繰り返しています。

このように、7つの課題に対し、国（当所を含む法務官署）、地方公共団体、民間団体が一丸となつて「再犯防止」に取り組んでいます。まずは、この取組に関心を持っていただき、御理解・御協力をお願い申し上げます。



「再犯防止推進計画」における7つの重点課題

1 就労・住居の確保等
2 保健医療・福祉サービスの利用の促進等
3 学校等と連携した修学支援の実施等
4 犯罪をした者等の特性に応じた効果的な指導の実施等
5 民間協力者の活動の促進等、広報・啓発活動の推進等
6 地方公共団体との連携強化等
7 関係機関の人的・物的体制の整備等

日本で一番働きたくなる街“みやぎ”を目指して

～みやぎイクボス同盟～

近年、子育て世代を中心に共働き世帯が増え、それに伴い仕事と私生活の両立（ワークライフバランス）の悩みが大きくなっているように感じられます。また仕事だけでなく私生活の充実を重視する若い世代も増え、時代とともに働き方や会社、上司に求める理想像が変化しています。

今回は、日本で一番働きたくなる街みやぎを目指し、企業や団体の枠を越えて社会におけるイクボスの養成に取り組む、みやぎイクボス同盟事務局 NPO法人ファザーリング・ジャパン東北（以下「FJ東北」）の竹下代表にお話を伺いました。



みやぎイクボス同盟とは？

みやぎイクボス同盟は平成29年2月に宮城県が中心となり、県内50の企業と団体で活動を始めました。FJ東北が事務局を担っています。女性活躍推進やイクメン、親族の介護など働き手の生活は多様な形態に変化しています。そんな中、ワークライフバランス（以下WLB）を尊重し、業績の向上も目指す「イクボス」の必要性を認識し、積極的に管理職の意識改革を行う企業・団体のネットワークです。



▲平成29年2月 設立式

「イクボス」は新しい時代の理想の上司

イクボスとは、男性・女性管理職を対象に共に働く部下・現場スタッフのWLBを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出し、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のことです。特に若い世代は私生活の充実を重要視している人が多く、働き方の変化に伴い、会社や上司のあり方も変革の時期を迎えているのかもしれませんが、現代は、仕事一辺倒ではなく、社員の私生活にも目を向けた取り組みが必要とされているとされています。

WLBという考え方が浸透し、働く環境や会社のあり方に目を向ける機会が多くなりました。竹下代表はWLBについて「働く人の権利はありますが、自分たちで

つくりだすものだと考えています」と話されます。時間の捻出や効率的な働き方のためには、求めるだけでなく働き手が意識して取り組むことが大切だと教えてくださいました。

人との出会いが喜びに変わる

現在、みやぎイクボス同盟は約70の企業と団体で構成されています。日本各地で行われているイクボス企業同盟は、加盟を企業に限定しているところがほとんどですが、みやぎイクボス同盟では枠を取り払い、NPO法人や一般社団法人などさまざまな団体・企業が加盟しています。企業以外の加盟団体を承認しているのは、他県にはないみやぎイクボス同盟の特徴だそうです。

定期的に行われるセミナーや事例発表会には、一般企業・団体問わず多くの方が集まります。育休を取得した男性職員が登壇し体験談を話すなど、働き方改革に向けた検討会などを行なっているそうです。活動をきっかけに、今まで



▲みやぎイクボス同盟恒例 交流会

関わりのなかった企業が出会い、コラボ活動が生まれるなど新しい繋がりの場になっているそうです。「みやぎイクボス同盟のいいところは、公私問わずざっくばらんに話せる環境があることです」と竹下代表。また、「イクボス同盟での活動を通して、お金では買えないたくさんの出会いや経験をいただいております」と笑顔で話されます。多様な職種の方が会社の枠に囚われず交流できる、貴重な機会になっていることを感じました。

「みやぎイクボス同盟に加盟し、活動に参加して下さっているのは、育児や働き方改革について興味のある意識の高い方々です。しかし本場に必要なのは、支援する団体や制度を知らず困っている人たちに情報を届けたり、手を差し伸べたりすることだと思います」と竹下代表は熱く話されます。性別や階級に関係なく働きやすい社会づくり、また充実した人生を築く一端となる活動をしているみやぎイクボス同盟の活躍に、今後も目が離せません。

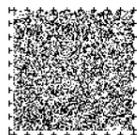
（宮城県社協取材）

お問い合わせ先

〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡5-1-18
三共ビジネス有有限会社内
TEL 090-5836-4854 (竹下携帯)
e-mail ikuboss_@fjtohoku.jp

イクボス10箇条

- 一 理解
ワーク一辺倒ではなく、ライフにも時間を割くことに理解を示していること
 - 二 ダイバーシティ（多様性）
ライフに時間を割いている部下を差別・冷遇せず、ダイバーシティな経営をしていること
 - 三 知識
社内制度（育児・介護休暇など）や法律（労働基準法など）について知っていること
 - 四 組織浸透
管轄している組織（部長であれば部内全体に、ライフを軽視せず積極的に時間を割くことを推奨し、広めていること
 - 五 配慮
家族を伴う転勤や単身赴任など、部下のライフに大きく影響を及ぼす人事については配慮していること
 - 六 情報共有
育児取得者などがいても、業務が滞りなく進むよう、組織内の情報共有の仕組みを作っていること
 - 七 時間捻出
部下がライフの時間を取りやすいよう、会議や書類の削減、意思決定の迅速化を進めていること
 - 八 提言
ボスから見た上司（大ボス）や人事部などに対し、部下のライフを重視した経営をする常用性について積極的に提言していること
 - 九 有言実行
イクボスのいる組織や企業は業績も向上するということを実証し、社会に広める努力をするということ
 - 十 魂より始めよ
ボス自らワークライフバランスを重視し人生を楽しむこと
- NPO法人ファザーリング・ジャパン
イクボスプロジェクトより



地域で暮らす方々に、
配食サービスで安心と元気を届けます！

認定特定非営利活動法人
あかねグループ

あかねグループは、仙台市若林区で37年活動している認定特定非営利活動法人です。高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らしている地域の街づくり、そして誰もが参加できるボランティア活動の場の提供を目指して活動しています。

その柱のひとつが、「1984年から続く「あかね弁当」です。加工食品や保存料、添加物を使わず、旬の食材や季節の伝統料理にも配慮した食べ飽きない家庭的な手づくり弁当を1日約200食、利用者宅へ配達しています。日本の配食サービス草創期より「高齢者の栄養」を学び、「見守りながら配食するシステム」を構築し、週7日、昼7回・夜6回の配食サービスを創ってききました。

あかね弁当の特徴は、利用者との対話し栄養状態や食習慣を把握すること。そして食べやすい

硬さや大きさ、肉・魚・野菜をきちんと摂れる多様な食材、薄味ながら出汁や食材の味を生かした味付けなどに「しっかりと食べてほしい」という思いを込めていること。限界はあれど一人一人の利用者に寄り添った食事を作り、健康維持に役立つことが目的です。

食で健康な生活をまもる

高齢になると食が細くあっさりしたものや好むなど食事が偏り、たんぱく質やエネルギーが不足しがちです。栄養素の摂取が体の必要量より少ない低栄養の状態が続くと、免疫機能が低下して細菌やウイルスへの抵抗力が衰えたり、体力や認知機能の低下などが起こり、元気な暮らしを阻害する要因となります。高齢者の多くがこの虚弱な段階を経て徐々に要介護状態に陥るといわれているのです。

変化のある多彩な献立や高齢者が食べやすい工夫、栄養素のバランスを考慮した弁当の定期的な配達、同じもの

ばかりを食べる食生活が単調、買い物や調理が億劫という方の生活リズムと元気を生み、栄養改善につながると考えています。また、あかね弁当の調理や配達には、高齢のスタッフやボランティアも活躍しています。元気なうちは支える側にまわることで地域と関わりを持ち、活動者自身も食のつながりの大切さを理解する機会となっております。

かつてない超高齢社会で、私たち配食サービス事業者も、地域包括ケアの重要な担い手として積極的な取組を求められています。配食利用者やその家族から寄せられる言葉、賛助会員や善意の個人・企業からのご寄付、地域の方々の問い合わせなどからも活動への期待を強く感じています。スタッフ・ボランティアの不足や食材費の高騰など課題は山積していますが、あかねグループは地域と共に一つ一つの課題を解決しながら、毎日の活動を続けていきます。

キラリ仕事人

このコーナーでは福祉の職場で働くキラリ☆と光る人を紹介します



今号では、
社会福祉法人仙慈会
荒井マーヤ保育園で
保育士として働く
鈴木誉栄(すずきたかえ)さん
にお話を伺いました！

現在の仕事の内容を教えてください

荒井マーヤ保育園の中にある子育て支援センターの担当をしています。在園ではない地域の子どもたちが遊びに来てくれたり、お母さん向けの講座やグループに分けた子育てサロンなど地域の親子を対象とした活動をしています。また、子育てに関する悩みや困りごとを聞いたりしています。

保育士になられて何年目ですか

7年目です。



▲みんな興味津々です！

保育士を目指すきっかけを教えてください

物心がついたときから保育士になりたいと思っていました。きっかけを探るべく親にきいたところ、私は幼い頃に阪神淡路大震災で被災したのですが、近所の保育士の方が避難を手伝ってくださり、その時から保育士になりたいと言い始めたそうです。その後も兄弟や近所の幼い子の面倒を見る機会に恵まれ、ずっと保育士に憧れていました。高校生の時、保育士以外の職業を調べたこともありましたが、やはり幼い頃からの夢であった保育士になる道を選択しました。

やりがいを感じる場面はどんなところですか

保育士としては、子どもの成長を感じられた場面は嬉しいですね。赤ちゃんから歩けるようになっていく成長していく時間をそばで見守ることができるのは素敵だなと感じています。また保護者から「ありがとう」と言われると保育士としての力になります。

難しいところはありますか

私はまだ7年目の保育士で、子育ても未経験です。そんな私が子育て支援センター職員として子育ての相談や、困りごとに対してきちんと応えられているのか不安になることもあります。帰宅後に「もったい話し方があったのではなにか」など考えることもあり、難

保育士の魅力を教えてください

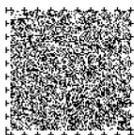
やはり、子どもの成長をそばで見守れるというのが魅力だと思います。子どもの成長はあっという間ですが、その短い期間を一緒に過ごすことができるのは嬉しいです。また、季節ごとの創作活動やお散歩など、保育士は日本の四季や行事を強く感じられるという魅力の一つかなと思っています。(宮城県社協取材)

社会福祉法人仙慈会 荒井マーヤ保育園

平成28年4月にオープン。一般保育の他に一時預かり、子育て支援も行っています。また通信物「マーヤのおひさま通信」を発行し、保護者や地域の子育て支援にも力を注いでいます。保育園は地下鉄荒井駅構内の2階にあり、アクセス良好です。屋上には、砂場や子どもたちが元気いっぱい走り回れる園庭があり、元気な声が響きます。

【お問い合わせ先】

〒984-0032
仙台市若林区荒井字沓形85-1
電話番号 022-354-0654



お問い合わせ先

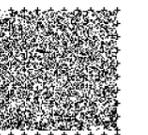
認定特定非営利活動法人あかねグループ
〒984-0823 宮城県仙台市若林区遠見塚1-5-35
電話番号 022-285-0945
022-285-0941 (介護・ケアプラン専用)



▲はらこ飯と南瓜コロッケのお弁当



◀厨房での盛り付けの様子





名取市市民活動支援センターの取組み

名取市では、「市民との協働によるまちづくり」を推進するため、多様な分野において市民・民間の協働体制作りを取り組んでいます。名取市※市民活動支援センターは市の条例のもと設置され、地域の市民活動・社会貢献活動をサポートしています。今号では、名取市の市民活動の拠点である「名取市市民活動支援センター」の取組みを紹介します。



市民・企業・行政が繋がる地域を目指して

名取市市民活動支援センターは、平成27年にリニューアルオープンし、各種講座や専門相談会、フォーラムなどの開催を通して、社会や地域の課題解決に取組む市民活動の活性化や地域交流を後押ししています。かねてより企業との連携・協働の可能性を探っていた同センターは、平成28年度から行政（名取市）の参加による「市民活動団体と企業の情報交換会」を開催。それをきっかけに、企業の空きスペースの有効活用として運動教室を市民活動団体と協働で開催するなど、新たな試みが生まれています。「特定の繋がりがだけを強めるのではなく、市民・企業・行政の三者が相互に繋がり、支えあうことが必要」と、スタッフの齋藤正

光（さいとうまさみつ）さんは話します。この情報交換会を通して、三者で名取市の市民活動をサポートする体制が出来上がりがつつあります。

「あつまる・つながる・ひろがる」市民活動の拠点として

地元企業との連携・協働の実践は、さまざまな形で実を結んでいます。イオンモール名取では、毎週金曜日に「イオンホール」（会議室）、「つばさの広場」（フードコート）を、名取市市民活動支援センター登録団体へ開放しています。楽器演奏やスポーツなどの市民活動を自由に行える場の提供や、幅広い層の方々に興味を持ってもらう機会にもなり、市民活動の活性化に繋がっています。「人口減少など社会課題はさまざまあるが、一人ひとりが課題解決の手がかりとして、市民活動に参加する機

会を多く作っていききたい。『住み続けたいまち』として選ばれているには市民活動は欠かせない」と話すのは同センターマネージャーの木村ひろ子（きむらひろこ）さん。相互に繋がりが、支え合う。そんな名取市の市民活動の拠点として日々挑戦を続ける、名取市市民活動支援センターへ是非足を運んでみてください。

（宮城県社協取材）

※市民活動支援センター

「営利を目的とせず、社会のため、みんなのためになることに、自ら取り組んでいる、または取り組もうとしている市民や団体」のための施設。



市町村社協 レポート

地域住民の思いを形に、そこから広がる助け合いの輪

～柴田町社会福祉協議会 住民同士の助け合いを支える取組み～



▲登録料は1,000円。利用料金は30分につき300円。

近年、少子高齢化の進行や地域住民のつながりが希薄化している中、支え合い、見守りなどの住民による地域福祉活動に注目が集まり、その活動への期待が高まっています。今号では、柴田町社会福祉協議会（以下「社協」）の住民同士で助け合う「ふれあいネットワーク互助事業」を紹介します。

町民の体験から

平成3年、柴田町では、商工会婦人部の介護体験談などから、地域住民が抱える地域生活課題解決のため、町助役や福祉課長、社協会長などが集まり、住みよいまちづくりについて懇談会を行いました。ここでは「在宅生活を支えていくために、有料でもいから住民主体のサービスを創ろう」という意見にもとづき、約1ヶ月間かけてアンケート調査を実施。事業の必要性を望む声が多かったことから、サービス提供を検討するための委員会を設置することになりました。

思いを形に

この委員会には、地域住民もメンバーとして加わり、具体的なサービス内容や、利用促進のための住民向け説明会などを実施。平成6年、日常で困りごとを抱える方々に対して、協働会員（有償ボランティア）として参加した地域住民の中から家事援助や子育て支援、移動サービスといった日常生活を支援する

サービスが始まりました。

時代とともに多様化する住民のニーズに合わせ、事業内容をよりきめ細かに展開。支援を必要としている方に必要なサービスを提供することによって、利用する方の生活改善に繋がりが、家族の負担が軽減したりといった効果が表れています。また、移動が困難な方が、移動サービスを利用することで、社会参加や健康維持、さらに消費行動の促進という効果にも繋がっています。

住みやすい地域づくり

「住み慣れた町、なじみの人間関係の中で、明るく楽しく暮らせるような助け合いと思いやり



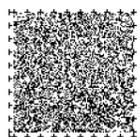
▲移動サービスの様子

柴田町社会福祉協議会

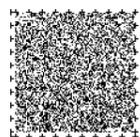
人口 / 37,971人
（平成30年8月末日現在）
社協職員数 / 50人



基本理念は「温故知新」。希薄化している日常的な住民交流や地域福祉活動への参加の価値観をもう一度見直し、誰もが安心して暮らすことができる地域福祉を推進していくことを目標に事業を展開しています。



（宮城県社協取材）



健康づくりと地域づくりで けんこう “健幸”の輪を広げます

マリンホーム地域包括支援センター（岩沼市）

震災で被災した海沿い6地区が集団移転した岩沼市玉浦西地区。みずからも被災し、同地区に移転再建した「マリンホーム地域包括支援センター」（以下「マリン包括」という。）では、住民の健康と地域づくりのためのユニークな活動を展開しています。そのひとつ、自分の健康づくりと、身近な人を誘って健康と地域の見守り・声掛けの輪を広げる“お散歩コーディネート養成講座「健幸発見！さんぽ塾」”にお邪魔しました。



▲さんぽ塾スタート。
天候に恵まれ会話と風景を楽しみながら進みます。

歩いて、話して、健康づくり

講師の指導で入念なストレッチ後に散歩が始まります。この日は新しい住宅街を抜け、津波で家が少なくなった地域を通る初めてのコースでした。すれ違う方や庭に出ていた住民とあいさつを交わし、「以前はこのあたりに住んでいたけど歩いたのは久しぶり」「ひとりだと面倒な時もあるけど一緒に楽しく運動できるからね」と参加者同士おしゃべりしながら歩きます。途中休憩した地区の氏神社では、参加者でもある区長さんから御神楽など行事について伺う即席の歴史講座もありました。約一時間後、出発地点に戻り軽い体操をして解散です。歩いた距離はおよそ4キロ、皆さん元気に帰宅されました。

健康づくりで 地域づくりをサポート

「健康づくりと地域の見守りがテーマのさんぽ塾は今年で3年目です」とマリン包括所長の森さん。「最初は見守りについて講話もしたのですが、実は参加者の多くは地域の見守り活動や気になる方への声かけをされて

健康と笑顔が地域の元気力

「この周辺はもともと地域のつながりが強く、住民の組織力も高いです。今ある集まりには長く継続できる運営支援を、何かをやってみたいと考えている方にはきつかけづくりや活動立ち上げなどのお手伝いをしていきます」と話してくださいました。これは、マリン包括で地域づくりを担当する生活支援コーディネーターの大内さんです。「サロンや運動教室の参加者は、地域や健康へ



▲ちょっとひと休み。

の高い関心と、交流の場への参加意欲をお持ちです。皆さんが興味のある情報を提供し、住民の力を生かして参加者同士が交流と活動の場を広げるサポートで、地域のネットワークと連携の力を高めていきたいです」とのことでした。住民主体の活動を包括がサポートすることで、健康づくりの取組が自分たちで講師を呼び地元でも教室を開催するなど、自主的な活動も展開されています。健康づくりから仲間づくり、そして地域づくりへと、けんこうの輪が広がっています。

（宮城県社協取材）

第3回いきいきSUNクラブ文化祭

昨年このページでは「いきいきSUNクラブ」のサークルについてご案内させていただきました。今年はサークルの発表の場である、いきいきSUNクラブ文化祭についてご紹介いたします。

発表に参加されたサークルの皆さんも、日頃の練習の成果を存分に発揮し、客席から大きな拍手をいただきました。参加された皆さんからは日頃の作品づくりや練習の成果を発表出来る場として、練習に力が入るといふ声をたくさんいただきました。

いきいきSUNクラブ文化祭は今年で第3回を数えましたが、作品展示の部で6サークル、ステージ発表の部で5サークルの参加がありました。また個人での写真や絵画の展示も多数いただきました。残暑で少し蒸し暑い日でしたが見学に訪れた方々も200名を越え、過去最高となりました。今年初めての試みとしてポスターを作成し、練習会場や町内会の掲示板に掲示したのも一定の効果があったように感じます。

作品展示に出展したサークルの皆さんは毎月の例会で作成した作品の中から、選りすぐりの作品を多数出展していただき、訪れた方々の目を十分に楽しませてくれました。またステージ



こんなこと やっています

ここでは、宮城県社協の事業をご紹介します

「宮城いきいき学園」 知っていますか

シニアカレッジとしての学習の場を通して、生きがいと健康づくりを支援するとともに、地域貢献活動への参加と地域の支え合いを担う人材の育成を目的に、県内に5校設置しています。

入学するためには

定員は各校40人で2学年制、学習回数は年間22回、県内に居住する、概ね60歳以上で継続して通学可能な方が入学できます。入学時に入学金と受講料（年間）を納入していただきます。



▲修学旅行 角館



▲学習風景



▲文化祭 ステージ発表



▲社交ダンスクラブ

何を学習するの

一般教養・健康・福祉に関する科目、地域活動、委員会・クラブ活動、修学旅行・文化祭などを通して仲間との「出会い・ふれあい・学びあい」を体験しながら学園生活を楽しめます。

どんな活動をしているの

卒業生は延4千人、卒業時に同期会を立ち上げ、福祉施設・地区老人会との交流、地域活動への参加や仲間との研修会・旅行会などを通して、生きがいと地域づくりに取り組んでいます。

【お問い合わせ先】
いきがい健康課
022-225-8477

